

## 第103回 維持管理研究会 議事録

1. 開催日時 : 2020年 1月23日(木)16:00~18:20
2. 場 所 : BCAO 日本橋事務所
3. 出席者(敬称略) 14名  
大塚、金子(幸)、金子(康)、木村、久保、坂本、澤田、柴田、清水、守護、菅谷、田中、永田、中谷(記)
4. 研究テーマ  
メンバーが抱えている問題点や課題等の自由検討、及び今年度実施したいこと等の情報交換を実施した。

### ①コロナウイルスに対する対応

2019年12月12日、中国の武漢で肺炎による患者の発症が報告され、当初は原因不明とされていたが、1月11日に武漢市は「新型コロナウイルス」による肺炎と発表された。

現在、中国では多くの死者や感染者が確認されている。「人から人への感染は排除できないが、そのリスクは比較的低い」と説明していた。

しかしながら、20日未明に、中国政府の感染症研究の専門家チームが「人から人に感染していることは間違いない」と明言し、WHO(世界保健機関)は、この新型肺炎が、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に相当するかどうかを検討するための緊急会合を開くことを決定した。

### BCP 観点からの対策ポイントとして

多くの企業で事業継続計画を策定しているが、地震を主な対象に策定している企業が多く感染症にした場合は、違ったアプローチが必要であるが、十分な対応策は策定されていない。

- ・ 被害対象はほぼ「人」に限定される。
- ・ 感染症は海外由来のものが多く、国内発生まである程度の準備期間が得られる。
- ・ 感染症は流行期間が長期化する場合がある。従ってBCPも長期間にわたる対策とそれに対応できる準備が必要になる。
- ・ 被害が国内全域(又は世界中)に広まることが予想されるため、地理的分散によるリスク低減策が有効にならない場合がある。

研究会参加メンバー各社の対応としては、中国への出張禁止を基本としており、他の対策としては、通常のインフルエンザ対応と同様の手洗い(消毒剤)、うがい、マスク着用が中心である。

今しばらくは、情報収集が中心となっており、今後の状況を様子見としている企業が殆どであった。

### 菅谷さん(SOMPOリスクマネジメント)からの最新情報提供

メディアでは、春節に伴い封じ込めや感染の話題も増えてきましたので、一読願います。

#### ■SOMPOリスクマネジメント株式会社

<https://image.sompo-rc.co.jp/reports/r187.pdf>

## ②参加各社の取り組みや課題

事例)

### ・東京 2020 対応

⇒テレワーク勤務、物流対策、テロ対策など

昨年 7 月に検討した結果をもとに最新状況を踏まえて、3 月の研究会で見直しを行う

### ・地域社会貢献・共生

⇒AED 増設、備蓄食料品のフードロス対応

1万食分を単純廃却でなく、社会への寄与として、こども園や貧しい他国への提供などを考えているが、NPO 等を探しているが良いアイデアがあれば提供して欲しい。

殆どの企業は、従業員に配布し試食させている。また水については、断水時のトイレ等に使用を考えている企業も数社あった。

### ・従業員教育用の映像教材作成

⇒国・自治体の公開動画、NHK 利用許可などが良い。

## ③生活継続計画(LCP)論文発表の概要 …… 久保さん

放送大学大学院にて「生活継続計画 LCP」について、修士論文発表資料の説明

BCP と生活継続との関係について、災害発生時から早期に事業を再開するには、従業員の生活継続があつてこそ、BCP が有効に機能することを再認識した。

※次回は、SGホールディング様にグループ全体訓練見学会を予定

以上